

# 笑(わらう)

登録番号：第918号

登録年月日：昭和60年7月18日

登録者：清水直江(長野県小県郡  
東部町滋野乙2888)

育成者：清水直江

来歴：在来オニグルミの自然交雑  
実生

登録取消：(昭和63年7月19日)

## 特 性

### ■栽培特性

樹姿は中間型であり、枝梢の太さは中、節間長は短い。小葉の数は13~15枚で多く、形は鋭尖状長楕円、小葉の鋸葉は有り、色は濃く大きさは中である。1花そうの雌花の数は6~8個で多いが「オニグルミ」の一般的在来種に比べてやや少ない。雌花のめしべの色は黄色から紅の中間色で橙紅色から桃紅色である。雄花穂の長さは極長である。青皮つき果実は楕円形で小さく、青皮は薄い。青皮つき果実は10月初旬頃に落果するが拾い集め、地面に積み上げ湿った状態で青皮を腐らせる。水洗いして天日で乾燥すれば核果の果頂部が自然に割れ、果仁の取り出しが極めて容易となる。

### ■果実特性

核果の形は楕円形、核果の色は褐色で大きさは10g内外と小さい。核果の縦溝は浅く、側穴はやや目立ち、縫合線の隆起は低く、縫合線は狭く、核皮の厚さは中である。仁の形は円、仁皮のはく皮性は難であるが仁皮をつけたままで食べても苦味がなく、甘味があり、香ばしい食味でおいしい。仁皮および仁の色の濃さは中である。仁の大きさは小さく、果仁歩合は小さい。在来の「オニグルミ」(信州大学系)と比較して、核果が楕円形であること、核果の開殻が極めて容易であることが特徴である。

### ■病虫害抵抗性および栽培上の留意点

病害としては炭そ病、紋羽病、枝枯性病害があるが、虫害の方が被害が大きく、コウモリガとアメリカシロヒトリの被害が大きい。特に苗木植付け時から4~5年は、コウモリガによる主幹基部の食害による苗木被害が大きい。主幹の基部の雑草を刈り取りコウモリガの食入を防止する。アメリカシロヒトリは、6月上旬~中旬と8月上旬の2回発生し産卵する。ふ化幼虫が分散しないうちに捕殺するか、殺虫剤を散布する。植付けは、地形や土壌の肥よく度によって異なるが、当初は6m×7mで10a当たり23本植えとする。10年目頃に半数に間伐し15年目頃には6本に間伐する。樹高が8~10m余にも達するので常に樹高制限を加えることが必要である。

本品種は雄花の開花が雌花の開花より2週間程早いため雌花の開花に適応した授粉樹を20%程混植するか、授粉樹が間にあわない場合人工授粉の効果が高い。蚊帳などのような粗い網で30cmくらいの網袋を作り、この中に雄花を入れ棒の先につけて樹上近くの枝に下げておく方法で結実率が極めて高くなる。

### ■地域適応性

栽培の地域適応性は広く湧水のある場所でも生育できるが多収穫を目的にするには排水が良く、しかも保水力のある地が望ましい。

(牧田 弘)